

1 結果のポイント(教科)

1 各教科の平均正答率【P4～5】

小・中学校いずれの教科においても、全国の平均正答率を下回っているものの、昨年度と比較すると、小学校のすべての教科、中学校国語A、数学Aで、全国の平均正答率との差が縮まっている。

小学校は、昨年度、すべての教科で全国との平均正答率との差が4ポイント以上あったが、今年度は、国語A、算数Aで2.3ポイントとなった。一方、算数Bは、全国の平均正答率との差が4.4ポイントある。

中学校は、昨年度と同様、すべての教科で全国との差が2.4ポイント以内である。

2 各領域の平均正答率【P6】

国語は、小・中学校各3領域1事項のうち、昨年度、全国を上回ったのは、中学校国語B「読むこと」のみであったが、今年度は、小学校国語A「話すこと・聞くこと」と「読むこと」、中学校国語A「話すこと・聞くこと」で全国を上回っている。

算数・数学は、小・中学校各4領域いずれにおいても、昨年度同様、今年度も全国を下回っている。

3 正答数の状況(下位層の割合)【P32～39】

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に属する本道児童生徒の割合(以下、「下位層の割合」という。)は、全教科で、全国よりも多く(小学校:3.3～6.0ポイント、中学校:0.8～3.8ポイント)上位県と比較して大幅に多かった(小学校:13.4～17.5ポイント、中学校:10.4～13.9ポイント)。

昨年度と比較すると、下位層の割合は、小学校国語A、小学校国語B、小学校算数A、中学校国語A、中学校数学Aで少なくなっている(2.2～10.4ポイント)。

4 過去の同一・類似調査問題との平均正答率の比較【P41～50】

国語では、小・中学校合計の同一・類似問題10問中、4問で全国との差が縮小し3問で拡大したほか、2問で全国を上回った。また、無解答率は、6問で低くなり、1問で高くなった。

算数・数学では、小・中学校合計の同一・類似問題48問中、20問で全国との差が縮小し6問で拡大したほか、3問で全国を上回った。また、無解答率は、20問で低くなり、7問で高くなった。

5 全国平均正答率より5ポイント以上低かった設問【P51～57】

全国と5ポイント以上の差がある設問数は、国語、算数・数学を合わせて小学校では60問中10問(16.7%)、中学校では93問中1問(1.1%)であり、昨年度と比較して小学校で23.3ポイント、中学校では9.8ポイント少なくなった。なお、10ポイント以上の差がある設問数は、昨年度、小学校で5問あったが、今年度はなくなり、中学校では、昨年度同様なない。

6 設問別調査結果【P58～67】

全国を上回った設問数は、国語、算数・数学を合わせて小学校では60問中6問(10.0%)、中学校では93問中22問(23.7%)であり、昨年度と比較して小学校で8.3ポイント、中学校では2.0ポイント多くなった。

無解答率が全国より低い設問数は、国語、算数・数学を合わせて小学校では60問中7問(11.7%)、中学校では93問中52問(55.9%)であり、昨年度と比較して小学校で11.7ポイント、中学校では1.6ポイント多くなった。

7 平均正答率(数)のばらつき【P78～102】

全国を上回った管内は、小学校算数Aで1(檜山)中学校では国語Aで2(石狩、十勝)国語Bで1(石狩)数学Aで1(石狩)数学Bで1(石狩)あった。平均正答率が最も高かった管内と最も低かった管内の差は、小学校で8.3～11.1ポイント、中学校で6.1～10.4ポイントであり、昨年度(小学校:5.8～8.4、中学校:4.6～8.0)と比較して差が大きくなった。

国語、算数・数学において全国を上回った市町村が23～67あり、昨年度と比較して、小学校国語A、小学校国語B、小学校算数A、中学校国語A、中学校数学Aで増加した。その中で秋田県の平均を上回った市町村も3～16ある一方、全道平均以下の市町村が97～121あった。

国語、算数・数学において、全国を上回った学校が小学校では26.1～36.8%であり、昨年度と比較して、国語A、国語B、算数Aで増加した。中学校では35.8～48.2%であり、昨年度と比較して、国語A、数学Aで増加した。その中で秋田県の平均を上回った小学校が6.8～13.1%、中学校が13.0～19.1%あり、昨年度と比較して、小学校国語A、小学校算数A、中学校数学A、中学校数学Bで増加した。一方、全道平均以下の小学校が46.9～52.0%、中学校が48.6～51.8%あった。

8 市町村の規模別の平均正答率【P103】

「大都市・中核市」の中学校すべての教科で全国を上回っているが、「大都市・中核市」の小学校、「その他の市」や「町村」の小・中学校すべての教科で全国を下回っている。また、概ね「大都市・中核市」、「その他の市」、「町村」の順に平均正答率が高いが、最も高い地域と低い地域の差は小学校で2.1～4.8ポイント、中学校で2.7～5.2ポイントであり、昨年度(小学校:0.7～2.3、中学校:0.7～1.8)と比較して、全ての教科で差が大きくなった。